

エンジニアリング 「設計コンセプトを支える技術提案」

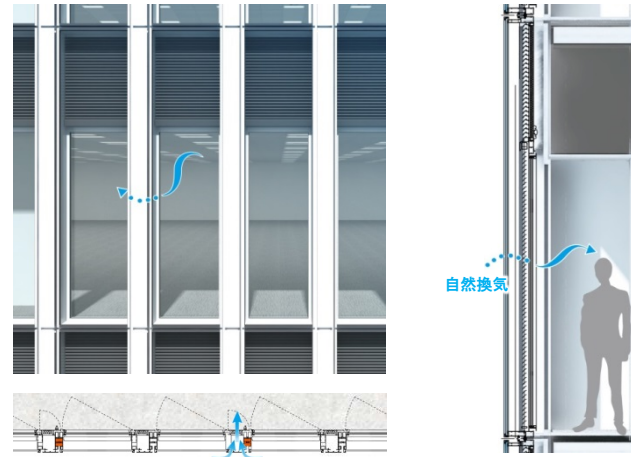
3つの技術

横浜市新市庁舎計画案デザインレビュー

ーデザインビルドを主導する建築家と設計チームが新市庁舎案を語るー

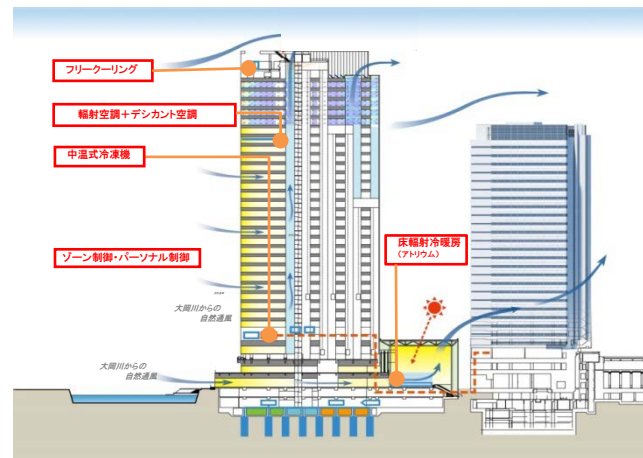
ファサード

- ・ コアを東側に配置した基準階プラン
- ・ 高断熱ダブルスキンカーテンウォール
- ・ エコボイドの煙突効果による自然換気



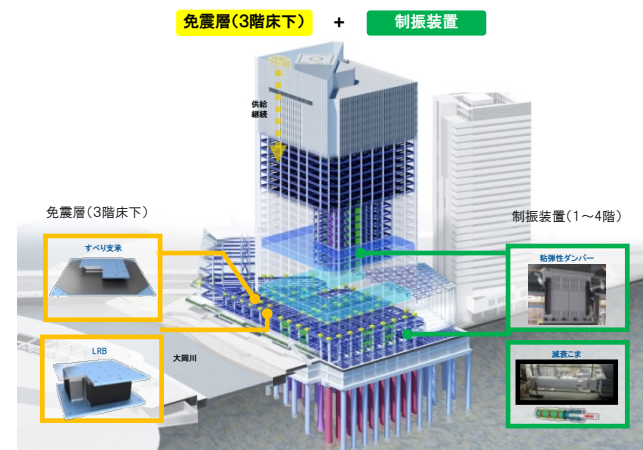
環境

- ・ 熱負荷の徹底削減
- ・ 高効率な熱処理
- ・ 自然エネルギー最大利用



構造

- ・ ハイブリッド免震（3階床下免震+制振）
- ・ 津波浸水リスクを低減する床レベル
- ・ ねじれ変形を抑制する大径列杭



2016年2月 横浜市新市庁舎デザインビルド(以下DB)事業者が決定しました。基本設計から施工まで一括して施工会社が担当する、というこれまでにない方法に対し、建築界からは危惧の声もあがっていました。

「新市庁舎は、計画地の都市的文脈、環境、構造、コスト等多くのファクターを読み込み、これからの横浜を象徴する市民のための先進的なシティホールとして計画されるべきものであり、また、DB方式であるにしても、これらの点を具体化するために優れた設計者あるいは建築家が主導的な役割を果たすべきである」と考え、JIA神奈川では要望書を提出するとともに研究会を立ち上げ、事業提案計画作成に際して特に留意すべき事柄の整理などについて横浜市と意見交換をしてきました。

今回、横浜市新市庁舎の事業者は、竹中・西松建設共同企業体に決定しましたが、このチームには榎総合計画事務所がデザイン監修者として参画しています。

今後基本設計が本格化するこのタイミングで、日本建築学会神奈川支所、神奈川県建築士会も加わり、横浜市の理解も得て、昨年秋に提案された計画案の主旨等について、デザイン監修者である榎総合計画事務所・榎文彦氏と竹中・西松チームから、新市庁舎提案のコンセプトや内容の説明を受け、質疑応答を行う場を設けることになりました。

この機会を、より良いシティホールを実現するために、市民に開かれた設計プロセスの第一歩にできれば、と考えています。

- 日時 : 平成28年4月27日(水) 18:30~20:30(受付開始18:00)
- 場所 : 横浜市開港記念会館 講堂
- 主催 : 一般社団法人 日本建築学会関東支部神奈川支所
一般社団法人 神奈川県建築士会
公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会(JIA神奈川)
- 共催 : 横浜市
- 当日スケジュール : <司会進行> 青木恵美子(JIA神奈川)

- 18:30~ 挨拶(主旨説明) 国吉直行(建築学会神奈川支所長、横浜市立大学特別契約教授)
- 18:40~ 計画案コンセプトについて 榎文彦、福永知義(榎総合計画事務所)
- 技術提案について 竹中・西松建設共同企業体 設計チーム
- 19:40~ 質疑応答(質問者) 野原卓(横浜国立大学 准教授)
- < " > 小泉雅生(JIA神奈川副代表、首都大学東京 教授)
- <モデレーター> 飯田善彦(JIA神奈川代表)
- 20:20~ 今後の進め方について 鈴木和宏(横浜市総務局新市庁舎整備担当部長)
- 終了挨拶 金子修司(神奈川県建築士会会長)

横浜市総務局新市庁舎整備担当 TEL : 045-633-3903 FAX: 045-664-2501
email: so-chosyaplan@city.yokohama.jp

※ 当デザインレビューの録音・撮影はご遠慮ください。

1965 ● 横浜六大事業



代官山ヒルサイドテラス

1969-1992 ●

1971 ● 横浜市



金沢シーサイドタウン

1976-1978 ● 横浜市



金沢区総合庁舎

1981 ● 横浜市



並木第一小学校

榎 文彦(まき ふみひこ)

1928年東京都生まれ。東京大学、ハーバード大学に学び、また両校で教鞭もとる。1965年榎総合計画事務所設立。代表作に「ヒルサイドテラス」「スパイラル」「幕張メッセ」「4WTC・グラウンドゼロ」等。現在、北南米、アジア、ヨーロッパの各地でプロジェクトが進行中。日本建築大賞、朝日賞、プリツカー賞、AIAゴールドメダル等を受賞。著作に「見え隠れる都市」(共著)鹿島出版会、「記憶の形象」筑摩書房、「漂うモダニズム」左右社、「Nurturing Dreams」MIT PRESS等がある。

1997 ● 横浜市



篠原地区センター
地域ケアプラザ

2003 ● 横浜市



横浜アイランドタワー

2005 ● 横浜市



旧富士銀行横浜支店
映像文化施設

2014 ●

2016 ●



4 WORLD TRADE CENTER

横浜市新市庁舎計画案



アーバンデザイン

- ・海から港、そして街へ繋がる新市庁舎
- ・みなとみらい21、関内、桜木町・野毛など各地区を結ぶ結節点
- ・遠景：なだらかなスカイラインを形成する群景観の創出

建築デザイン

- ・中景：都市のゲートにふさわしいボリュームデザイン
- ・近景：横浜アイランドタワーとの調和のとれた外観
- ・議会棟の独立性を高める配置と形態
- ・歴史の重層性を尊重する低層部のコーニスライン

高層部デザイン

- ・白いシルクの質感をもつ品位あるたたずまい
- ・垂直ラインを基調とする白いアルミの外装
- ・眺望と環境性能を兼ね備えたダブルスキンカーテンウォール

低層部デザイン

- ・水際線プロムナードに沿って立体的に展開される緑のカスケード
- ・水辺の憩いの場となるギャラリーや商業施設につながるデッキテラス
- ・大岡川での水辺の市民活動を促す広場とプロムナード



- ・3つの広場とアトリウムをつなぐ歩行者ネットワーク
- ・水辺とアトリウムを多様に繋ぐ3層構成の回遊動線
- ・光と風と緑を採り入れ、開放的なアトリウムとギャラリー

